

オニヒトデの発生と対策の状況について

平成 16 年度のこれまでに実施されたオニヒトデモニタリング調査・駆除活動は次のとおり。

方法：

オニヒトデモニタリング調査・駆除(環境省請負)

モニタリング調査は、2004 年 5 月 24 日から 6 月 5 日までの 12 日間行った。昨年とほぼ同地点を調査地点として選び、13 海域 120 地点において、15 分間遊泳観察によるオニヒトデの目撃数、サンゴ類被度を記録した。

調査後の 6 月 24 日から 7 月 7 日までの 6 日間延べ 63 名が、「竹富島南」、「マルグー」、「カナラグチ周辺」で、オニヒトデの駆除を行った。

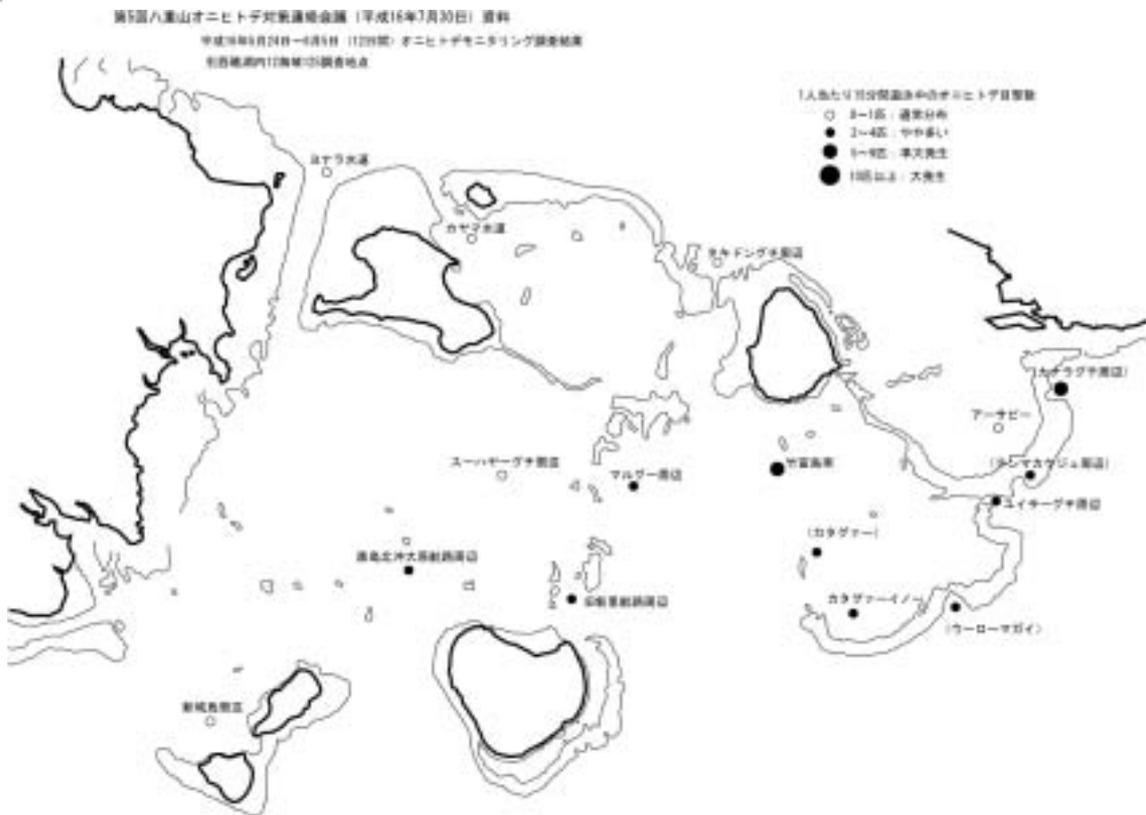
グリーンワーカー事業によるオニヒトデ駆除(環境省請負)

2004 年 5 月 15 日から 21 日までの 4 日間延べ 51 名が、オニヒトデが急増している「竹富島南」、「マルグー」、「カナラグチ周辺」、「スーハヤグチ」で、オニヒトデの駆除を行った。

また、5 月 22 日と 7 月 8 日には、延べ 23 名の有志が、「竹富島南」、「カナラグチ周辺」においてオニヒトデを駆除した。

結果：

オニヒトデモニタリング調査・駆除(環境省請負)



この図は各海域で15分間遊泳観察によるオニヒトデ目撃数が最も多かった地点の値を示している。
この調査から次のことが明らかになった。

- ・ 駆除を繰り返し行っている、竹富島南、マルグー、カナラグチ周辺では、オニヒトデの目撃数に目立った変化が見られなかった。
- ・ 前年2～3月のモニタリング時、多数のオニヒトデが目撃されたため駆除を行い、7～8月時の調査ではオニヒトデの目撃数が減少していたが、再び目撃数が増加した海域は、テンマカケジュシクチ、ユイサーグチ周辺、ウーローマガイ、旧新里航路周辺であった。
- ・ 前年の調査ではあまりオニヒトデを見かけなかった海域で、1地点あたりのオニヒトデの目撃数、目撃地点数が増加しているのは、竹富島南海域の一部であるカタグアー周辺、カタグアーイノー、黒島北沖大原航路、新城島周辺であった。
- ・ これまでに駆除を行ったことがある海域で、前年の調査結果と比較して目撃数が減少していた海域は、名蔵湾、テンマカケジュイノー、スーハヤグチであった。
- ・ オニヒトデの食害が原因で、サンゴ類被度階級(4段階評価)が明らかに低下した海域は見られなかった。
- ・ カナラグチ周辺では、モニタリング調査地点等を変更することにより、従来把握していたよりも広範に多量のオニヒトデが生息していることが判明した。

なお、この調査中に464匹のオニヒトデを駆除した。

■ グリーンワーカー事業によるオニヒトデ駆除(環境省請負)

合計2,521匹のオニヒトデが駆除された。その内訳は、竹富島南540匹、マルグー254匹、カナラグチ周辺1,715匹、スーハヤグチ12匹であった。

考察:

これまで定期的にオニヒトデを駆除することによって、オニヒトデの食害からサンゴ類被度が著しく低下することを防ぐことができていると思われる。今回の調査・駆除によってカナラグチ周辺では、カナラグチから養殖場対岸の防波堤付近にかけてオニヒトデが広く分布していることが明らかとなったことから、従来の規模の保全対策ではオニヒトデの全域的な増加を押さえることはきわめて困難であると思われる。